

令和7年度 第3回学校運営協議会（学校魅力強化委員会）議事録

1 期 日：令和7年10月21日（火）14:30～16:30

2 場 所：有田工業高校 会議室

3 出席者：外部委員9名（うち1名は中国・景德鎮よりオンライン参加）、欠席3名
佐賀県教育委員会事務局・教育振興課指導主事1名
佐賀県学校魅力化統括アドバイザー1名、学校魅力化アドバイザー1名
事務局：本校職員13名、地域みらい留学生4名、生徒会本部役員3名

4 議事録

(1)開会

以下の5点について連絡し、出席されている委員に承諾を得た。

- ・「佐賀県立学校運営協議会の設置等に関する規則」の第8条に基づき、本協議会は公開であること
- ・傍聴希望は、事前申請のうえ、傍聴可能となっていること（本日は傍聴希望なし）
- ・議事録作成や活動実績報告のため、事務局で音声記録や写真等を撮ること。
- ・「佐賀県立学校運営協議会の設置等に関する規則」の第7条第2項「協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない」を確認し、本会議は過半数以上の出席を得ており、会議は成立していること。
- ・委員1名が海外よりオンラインで参加されていること。

(2)学校長挨拶

以下の学校内外の近況報告に触れ、挨拶とした。

- ・文化部の全国大会参加（総文祭、NHK杯など）
- ・体験入学（7月30日・31日）実施
- ・夏休み中のボランティア活動、ロボット大会、マイコンカーラリー大会への参加
- ・インターンシップの実施（8月下旬）
- ・デザイン科展（佐世保市）への参加（約1,500名来場）
- ・体育祭の種目「珍代五種」のテレビ局による取材及び特集放送
- ・文化祭の開催（11月）
- ・本校の就職活動状況（90名中83名内定済み）
- ・中学校向け高校入試説明会及び中学校教員向け学校見学会（10月28日予定）

(3)佐賀県教育委員会事務局挨拶

- ・教育振興課唯一無二の学校魅力化促進事業担当の指導主事より、以下の2点の内容に触れ、挨拶とした。
- ・地域みらい留学や学校運営協議会への参加経験について
- ・生徒の成長と地域との関わりの重要性を強調

(4)議事（進行は会長）

①部活動（上半期）の実績報告

- ・全日制：文化部・運動部の表彰実績
- ・定時制：体育大会の実施、新聞コンクール、美術・科学研究部の活動

②高校進学フェス in 東京の実施報告

- ・実施日：8月23日(土)・24日(日)
- ・来訪者数：1日目：452組、2日目：436組（中学2年生の参加が多かった）
- ・有田工業高校ブース来訪者：45組（目標30組を上回る成果であった）

内訳：中学3年生：12組、中学2年生：25組、中学1年生：7組、小学6年生：1組

- ・工夫点：現役の地域みらい留学生（デザイン科1年生）による質問回答コーナー及びボランティア生徒（セラミック科3年）の協力により
- ・記念品の配付：学校運営協議会委員より提供いただいた有田焼の箸置き、有田町マーク付きのトートバッグ配布は大好評であった。

③地域みらい留学生(3年生)の報告

- ・4名の生徒が、以下の5点について発表
- ・地域みらい留学生で本校の受検を決意した契機と経緯
- ・これまでの生活を振り返って、頑張ったことや成長したと感ずること
- ・高校生活での一番の思い出になっていること
- ・これまでの生活を振り返って苦勞したこと
- ・進路先（予定）の報告

【地域みらい留学生（男子A）の報告】

- ・留学の動機：中学時代のクラブチーム監督の紹介で有田工業高校を知り、興味を持った。
- ・成長した点：金銭管理や早起きなど、自立した生活ができるようになったこと。
- ・思い出：2年生の夏に甲子園を目指して努力。ケガを乗り越え、3年生の最後の試合に出場し、最後の打席でヒットを打つことができたこと。
- ・苦勞したこと：課題と部活動の両立が難しかったこと。
- ・進路：大学進学予定。野球は体調と相談しながら継続を検討。

【地域みらい留学生（女子B）の報告】

- ・留学の動機：体験入学の楽しさと母の助言から、有田工業高校のセラミック科に興味を持った。
- ・成長した点：スケジュール管理能力が向上。朝が苦手だったが自分で起きられるようになったこと。
- ・思い出：地域イベントでの演奏活動を通じて、人の温かさに触れたこと。
- ・苦勞したこと：栄養バランスを考えた自炊が難しかったこと。
- ・進路：就職希望で内定済み。

【地域みらい留学生（男子C）の報告】

- ・留学の動機：姉の影響とものづくりへの興味から、有田工業高校を選択。
- ・成長した点：食生活の改善に取り組み、人間的にも成長を実感。
- ・思い出：修学旅行（東京・福島）でのスキー体験が印象的であった。
- ・苦勞したこと：地元から離れて孤独を感じたが、クラスメートの支えでその孤独感を乗り越えたこと。
- ・進路：就職希望で内定済み。

【地域みらい留学生（男子D）の報告】

- ・留学の動機：勉強より「ものづくり」が好きで、自分の武器を作りたいかった。
- ・成長した点：人前で話す力がついた。部活動で焼き物制作に打ち込んだこと。
- ・思い出：全国総文祭での受賞。作品づくりに試行錯誤し、成果を得たこと。
- ・苦勞したこと：自炊の料理が美味しく作れず、料理の楽しさを見出すのに時間がかかったこと。
- ・進路：国立大学進学希望。焼き物を続けたいという意志あり。

④質疑応答

- ・地域みらい留学生への質問

- ・学校生活での思い出、親との会話、方言の変化など
- ・学校や地域に求める支援（料理教室、地域交流の場など）

(5) 研修

①「第1回高校魅力化評価システムアンケートの結果の考察と意見交換」

- ・佐賀県学校魅力化統括アドバイザーより

②意見交換(グループワーク)

- ・佐賀県学校魅力化統括アドバイザーより、魅力化評価システムの概要、全国での活用事例、本校の強みや伸びしろ、分析する時のポイントの3点について解説
- ・4グループに分かれての意見交換（55分）
- ・外部委員と校内委員、地域みらい留学生（3年生）、生徒会本部役員（2年生）を1グループ6名で編成し、4グループに分かれて、以下の点について意見交換
 - ・学校魅力化評価システムの集計結果を見ての共感と違和感探し
 - ・有田工業高校として大事にしたい活動
 - ・未来への意見交換

(6) 諸連絡

- ・次回の開催について：2月に開催予定

(7) 閉会

- ・学校長より閉会の挨拶
- ・協議についてのお礼、今後の学校運営への反映、地域に根ざした学校として「地域を愛し 地域に愛される学校づくり」の推進に努めていくことを述べ、閉会の挨拶とした。